

# ストリートダンスにおける「表情／大きさ／きれ」による感性評価の変化

1732095 園原香凜

指導教員：山崎治 准教授

## 1. はじめに

ダンスをパフォーマンスするうえで感情や感性を表現することがある。特に、ストリートダンスにおける「楽しい」「カッコいい」という感情・感性表現は、ダンス未経験者に対して、「自分も踊ってみたい」と感じさせるダンスへのモチベーションに重要だと考えられる。熟達者のダンスは、ダンスを見る観客側に対して、表現されている感情・感性が伝わりやすくなっていると予想される。本研究では、感情・感性を伝えるために、熟達者を対象として、ダンスにおける感情・感性表現に関する意識についての調査を行い、「表情」「大きさ」「きれ」と呼ばれる身体表現に注目し、どのようにしてより効果的に感情・感性の表現をするのかを検討する。その結果から、これからダンスを始める未経験者や始めたばかりの初心者でも、「楽しい」「カッコいい」というポジティブな感情・感性を観客に伝えることができるような、ダンスにおける身体表現の仕方を明らかにする。

## 2. 実験インタビュー調査

ダンスジャンル「Lock」の経験歴が4年以上を熟達者として、ストリートダンスにおける「表情・大きさ・きれ」について自由に回答してもらった。「表情・大きさ・きれ」の定義と感情・感性に影響すると考えられるダンスでの表現について整理した。その結果より、「曲から感じた感情に合わせた顔の表情を作り、視線をあげて俯かない」「音が大きく力強い箇所では膝からしっかり足をあげ限界まで腕を伸ばす、低くなる箇所ではしっかりと下がり高低差が見えるように動く」「きれをみせ注目させたい箇所では素早く動いてしっかりと止まり、スピードやパワー、ストップを意識する」という教示をまとめた。

## 3. 実験

### 3.1 方法

**実験参加者：**ダンス未経験者の大学生13名

**実験計画：**ダンス動画撮影時の教示あり／なしによる1要因2水準参加者内計画

**材料：**15秒程度のダンス動画の撮影を5人に依頼し、教示あり／なしで2本ずつ撮影した計10本のダンス動画を実験材料として用意した。振付および選曲にあたり、ダンスを踊ることが好きな理由（宮下2011）として挙げられる「楽しさ」をテーマとした。さらに、Googleフォームで作成したアンケートサイトを用意し、ダンス動画を視聴できるように貼り付けをしたうえで、「楽しい」「カッコいい」など8項目の感性表現に対して4段階で評価してもらう設問を用意した。

**手続き：**ダンス動画を視聴し、Webアンケートフォームに回答するため、ネットワークに接続したPCやスマートフォンなどを参加者各自に用意してもらった。実験の説明や課題の実施はすべてオンラ

インで行うこととし、実験の協力依頼や説明文はメールやLINEを用いて参加者へ送付した。参加者は各自の接続環境から、Googleフォームの感性評価のフォームへアクセスすることで実験に参加した。

### 3.2 結果

5名のダンス動画に対して、教示あり／なしでの感性評価の違いを分析したところ、3名のダンス動画において、違いが見られた。図1に、3名のうちの1名（ダンサーA）のダンス動画に対する感性評価の結果を示す。ダンサーAの評価に対して対応のあるt検定により分析したところ「楽しい」「寂しい」「明るい」「暗い」の評価において、有意な差が認められた（「楽しい」： $t(12)=6.04, (p<.01)$  / 「寂しい」： $t(12)=3.98, (p<.01)$  / 「明るい」： $t(12)=4.64, (p<.01)$  / 「暗い」： $t(12)=4.24, (p<.01)$ ）。これらすべての評価において、教示あり条件の得点のほうが、教示なし条件よりも高くなった（結果では「寂しい」と「暗い」の評価は逆転処理後の値となっている）。

条件間で感性評価に差がみられた他2名のダンス動画においても、教示あり条件で「楽しい」「寂しい」「明るい」「暗い」の評価が高くなることが確認できた。

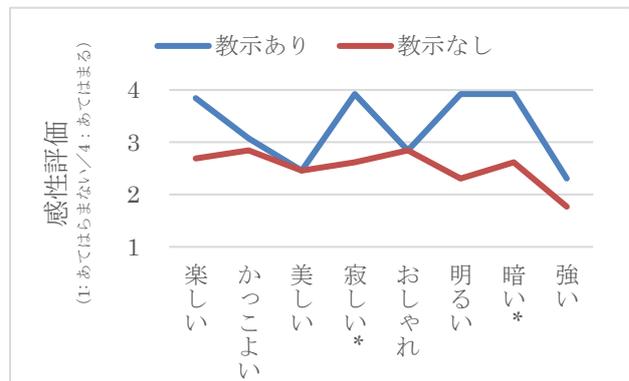


図1 ダンサーAの教示あり／なしにおける評価

## 4. まとめ

インタビュー調査を行い「表情／大きさ／きれ」をそれぞれ定義し教示すると、教示あり／なしで感性評価の変化がみられた。このことから、教示した表現方法は感性評価の変化に影響することが考えられる。また、項目ごとに変化の差があったため感情・感性を表現する方法だけでなく、伝えたい感情・感性を伝達させることができることもわかった。この表現方法を扱い変化させることで今回の実験では関連のなかった「美しい」「おしゃれ」など別項目の感情・感性も伝達させることが可能であると期待できる。

### 参考文献

宮下 恭子(2011). 学生のダンスや身体表現についての意識や自己評価に関する研究 東京成徳短期大学紀要,44